

ダリマナ

～ 南の風 ～

令和元年9月30日(月)

校長室日記

かいっぱい

号外

## 「あたりまえ」

あたりまえ こんなすばらしいことを、  
みんなはなぜよろこばないのでしょ  
うあたりまえであることを

お父さんがいる、お母さんがいる  
手が二本あって、足が二本ある  
行きたいところへ自分で歩いていける  
手をのばせばなんでもとれる  
音がきこえて声のでる  
こんなしあわせなことがあるとでしょ  
うかし、だれもそれをよろこばない  
あたりまえだ、と笑ってすます。

食事がたべられる  
夜になるとちゃんと眠れ、そして又朝がくる  
空気をむねいっぱいにする  
笑える、泣ける、叫ぶこともできる  
はしりまわれる  
みんなあたりまえのこと

こんなすばらしいことを、  
みんなは決してよろこばない

そのありがたさを知っているのは、  
それを失った人たちだけ

なぜでしょう あたりまえ

『飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ』(井村 和清)



生きたくても生きられない生命があります。無念のまま死ななければいけない命もあります。生かされていることに感謝をして、あたりまえのことに喜びを感じ、幸せを感じ、周りの人に感謝をして、一日一日を大切にしていきたいと思ひます。